

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
71006	1	前期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	コミュニケーション概論 (Introduction to Communication)				
担当教員名	植垣 一彦 / 大谷 佳子				
授業の概要及び到達目標					
他者との深いコミュニケーションは、「対象」に対する「認識の深まり」が不可避だ。特に看護においては、「対象」に対する「認識の深まり」が「看護行為」の質を決定づける。 そこで本科目前半では「認識論」に特化し、ひとはどういうカラクリで認識を深めるのかその過程的構造と、これを踏まえた正しい思考の方法を学ぶ。概要的に言えば、人間一般の認識発展の法則性を理解し、コミュニケーション能力を高めることを目標とする。 後半では患者との良好な関係を形成するため、また、スタッフ間の連携を円滑にするため、医療の現場で求められる態度やコミュニケーション技法を、演習によって学び、実践できる力を養う。医療の場における人間関係について、心理学的な視点から学習すること、および自己理解と他者理解を深め、良好な人間関係を形成するための対人関係能力（ヒューマン・スキル）を身につけることを到達目標とする。					
準 備 学 習 等					
・配布資料を忘れずに持参すること。 ・9回以降は特に毎回の授業前にテキストの該当する章・項目を読んで予習してくること。重点的に予習及び復習が必要な箇所は授業時に周知する。					
成績評価の方法	第1～8回：試験：試験のみで100%評価 第9～15回：毎回の授業時に作成するレポートで50%、第15回授業において作成する総括の課題レポートで50%の総合評価				
テキスト	第1～8回：講義時の配布資料 第9～15回：大谷佳子著，対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帖，翔泳社，2017.8				
参考図書	庄司和晃著，『認識の三段階連関理論（増補版）』，季節社．1999.4 その他、講義の中で紹介する。				

備 考	・学び取る強い姿勢のもとで受講すること。 ・第 11 回～第 14 回はグループワークを行うため、3 時限－A クラス、4 時限－B クラスに分かれて授業を行う。演習には積極的に参加すること。 ・第 9 回、第 10 回、第 15 回 A クラス・B クラス合同で講義を行う。 ・オフィスアワー：9 回目以降は授業終了後、教室で質問を受け付ける。
授 業 計 画	
第 1 回	序論 ・キーワード ・〇〇とはなにか（三つの段階による認識） （植垣）
第 2 回	本論 ・認識とはなにか ・認識の位置と特徴 ・認識の三段階連関理論 （植垣）
第 3 回	・認識の「のぼりおり」と「キッカケことば」 ・認識発展の姿
	・ナイチンゲールとヘンダーソンにみる認識の「のぼりおり」 ・「キッカケことば」看護短文づくり （植垣）
第 4 回	表象的認識論 （植垣）
	・比喩の力 ・絵図の力 ・標識の力
第 5 回	三段階論文づくり （植垣）
	・「看護師とはなにか」～体験の概念化～
第 6 回	・「看護師とはなにか」 （植垣）
	作品発表会
第 7 回	認識三論～認識の三大世界～ （植垣）
	・科学的認識 ・前科学的認識 ・非科学的認識
第 8 回	前半まとめ （植垣）
第 9 回	対人援助の専門家としてのコミュニケーション、対人関係能力の学習方法 （大谷）
第 10 回	自己理解：エゴグラムの活用 （大谷）
第 11 回	援助的コミュニケーションのマインド（演習：グループワーク） （大谷）
第 12 回	聴く技術（演習：グループワーク） （大谷）
第 13 回	伝える技術（演習：グループワーク） （大谷）
第 14 回	共感する技術（演習：グループワーク） （大谷）
第 15 回	授業総括・授業評価 （大谷）
定期試験	